C19	12.3
C25	17.3
E19	13.0
E25	18.0

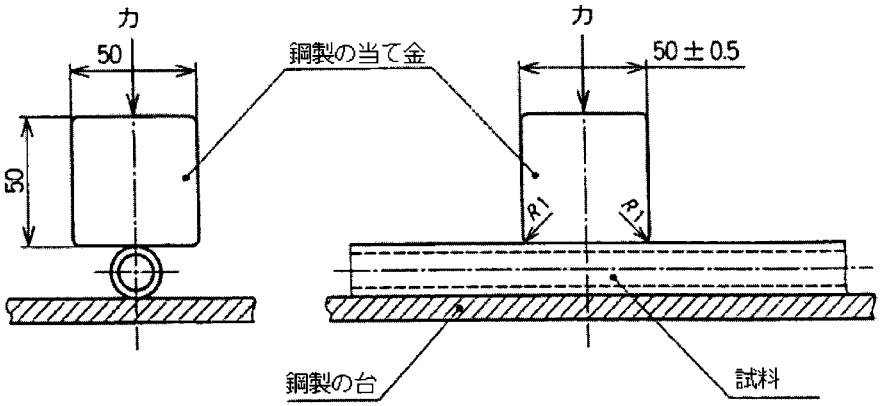
別表第二1(2)に次のように加える。

ニ　圧縮強度

長さ200㎜の試料をとり、常温において、試料のほぼ中央に図２に示す鋼製の当て金を載せ、その上から30秒以内に4,000から4,160Ｎの荷重を加えて60秒保持した後、荷重を加えたまま試料の扁平部分の外径を測定する。次に荷重と当て金を取り除き、60秒後に試料の扁平部分の外径を再度測定する。この場合において、試験開始前における外径に対する変形率は圧縮時で25%未満、荷重除去後で10%未満であり、かつ、ひび割れが生じないこと。

図２

単位 mm

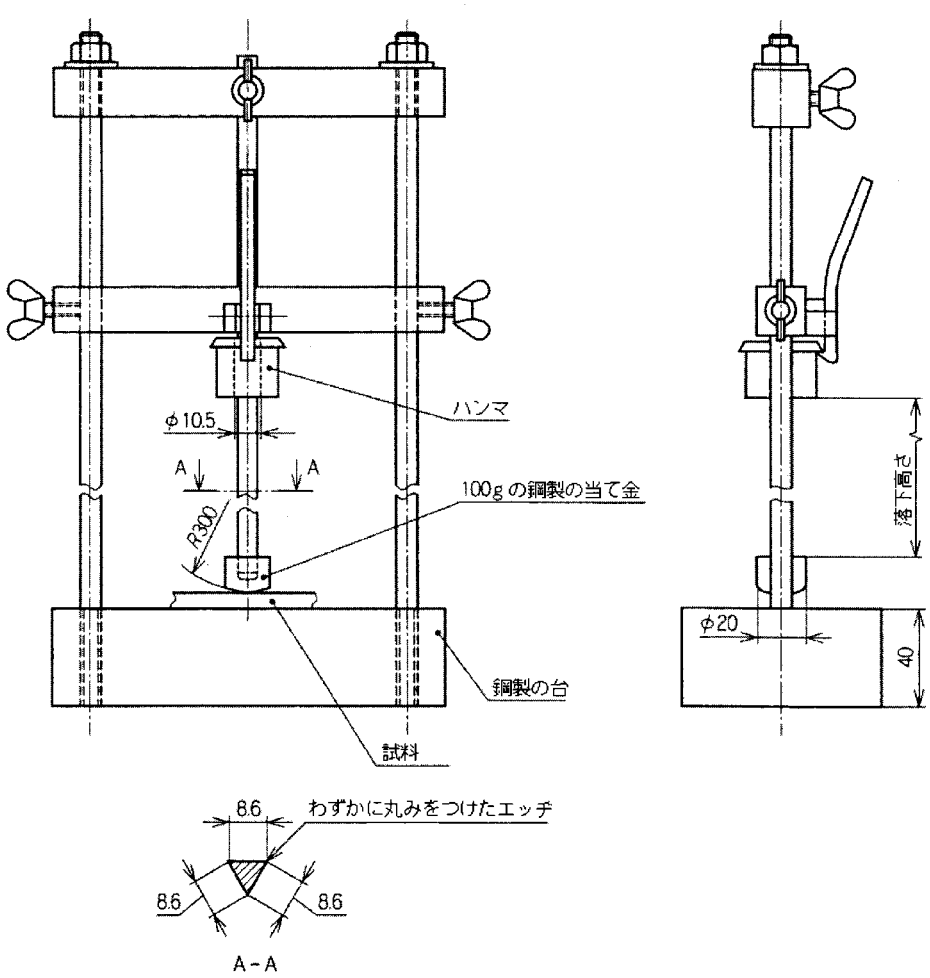


ホ　衝撃試験

それぞれ長さ200㎜の12本の試料について、図３に示す試験装置を使用して行う。温度を－45±２℃に保持する。各試料を、厚さ40㎜の密度が538±22kg／㎥の衝撃吸収材上に置いた図３に示す試験装置の鋼製の台上に置き、試料が規定の温度に達するまでの時間又は２時間のいずれか長い方の時間が経過した後、質量6.8から6.868kgのハンマを300㎜±３㎜の高さから各試料にそれぞれ１回落下させたとき、９本以上の試料にひび又は割れが生じないこと。

図３

単位 mm



別表第二1(3)ロを次のように改める。

ロ　絶縁耐力及び絶縁抵抗

次の手順で試験を行ったとき、これに耐えること。また、この直後に、同じ試料に直流電圧500Ｖを両電極間に印加し、60±２秒後の両電極間の絶縁抵抗値が100ＭΩ以上であること。

(イ)　長さ1.1ｍ±10㎜の試料を、一端を高電気的絶縁をもつ適切な絶縁材料で完全に封止し、図１に示すようにその端部の長さ約100㎜部分が水面から出るように塩水（23±２℃の塩化ナトリウムを１ｇ／Ｌの割合で完全に溶解したもの。）に浸すとともに、塩水を試料の開放端から外部の溶液の水位と一致するまで注入する。また、二つの電極のうち一方を試料内部に配置し、他方を試料外の溶液中に配置する。